

# 踏み跡 <My Mountains>

北アルプス	八方尾根から白馬岳へ	No.173
-------	------------	--------

白馬岳は有名過ぎて、登山シーズンに大混雑する。それがいやで登り残してきた。ようやく季節外れにゆっくり歩く機会が得られた。

## 昭和47年8月29日 <出発→白馬→細野>

天気は曇り、遅い出発で新宿発 11 時 30 分アルプス 3 号。こんな時間帯なのに自由席は満員のため指定席の S 席を確保。しかし、パンタグラフの下のエアコンの吹き出しがまともにあたり寒くてたまらない。甲府盆地は晴れてはいるが雲がち、盆地の向こう側にうかがえるはずの山並みが見えない。甲府盆地を抜けてしばらくして八ヶ岳は見えってきた。しかし 2300m 付近より上は雲の中。ところが、諏訪盆地を過ぎて安曇野に入ると快晴。しかし山は相変わらず見えない。昼食は（豪華に？）ビュッフェでカレーライスとコーヒー。

松本着は 15 時 26 分。大糸線を待つ間プラットホームで日向ぼっこと写真撮影。

16 時 34 分発南小谷行、もうこんな時間だと山に入る人は乗っていない。白馬 18 時 20 分。（昔の駅名「信濃四ツ谷」のほうが好きだ）暗闇を走るバスで細野に入り民宿泊。

## 昭和47年8月30日 <細野→兎平→八方池→唐松岳→天狗の頭→天狗山荘>

天気は晴れ、8 時 35 分出発。今日は八方尾根を登りきらなければならない。先につなぐ時間効率を考えてロープウェイとリフトの助けを借りる。下から歩いたらぞっとする。

ロープウェイ白馬山麓駅発 8 時 45 分。ロープウェイを降りた兎平からアルペンリフトに乗り継ぎ、文明の力を借りてかなり高度を稼ぐことができた。とは言っても霧雨がちの空模様で、南側の五竜岳方面はよく見えるが、北側の眺めは白馬が時々姿を見せてくれる程度。

八方池 10 時 30 分、(2120m)。髪の毛が濡れる程度の湿り気になってきたので帽子をかぶる。マツムシソウの色が鮮やかで、天気に恵まれず目を引くものが少ない中でよく目立つ。

唐松山荘 12 時、小屋じまいとのことなので物置を借りて昼食。今日はここで泊ってもいいなと思っていたが、小屋じまいでは仕方がない。天狗小屋まで歩を進めるしかない。

13 時出発、唐松岳 (2696.4m) を越える頃から風が強くなってきてガスの切れ間に時々白馬と太陽の姿が見えるようになってきた。

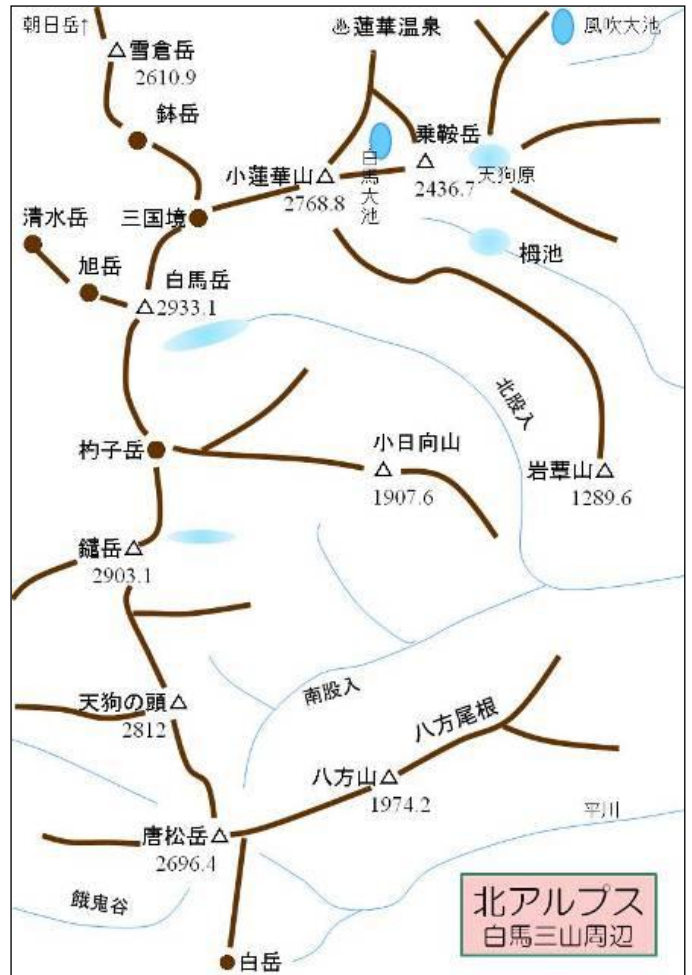
天狗の頭 (2812m) 17 時。さらに北へ少し下り、今宵の宿の天狗山荘に 17 時 10 分着。(素泊まり 1100 円)

## 昭和47年8月31日 <天狗山荘で停滞>

5 時起床、雨に近い霧で視界は 5~10m 程度しか得られない。天気図を書いてまた眠ることにする。こんな天気なのに 10 人程度の泊り客は皆出て行った。

9 時 15 分気象通報を聞き、再び天気図作成。申し分のない悪天候、前線の動きに注目しなければいけない。小屋に残ったのは一人だけだった。今日は読書と昼寝に没頭することにする。

ラジオが「東京に光化学スモッグ注意報」と報じていた。ファーブルの昆虫記 (1) を読み終わり、昼寝。10 時 30 分朝食兼昼食 (パン・キュウリ・紅茶・ミルク)。昼過ぎ頃から客入りがあり少々うるさかったが、かまわず昼寝続行。



## 踏み跡 <My Mountains>

16時気象通報、黄海の高気圧のお出ましに期待するしかない。食糧計画の関係で今日は夕食付きの宿泊に変更。(1400円) 18時夕食、自分で作らない食事は楽チンだ。

### 昭和47年9月1日 <天狗山荘→鑓岳→杓子岳→白馬山荘←→白馬岳>

5時起床、強風と雨。7時半再び起床、雨とガス。9時ガスと時々強風。

9時15分気象通報。黄海の高気圧が関東へ、太平洋の高気圧が九州へ動き始めて、低気圧は根室沖へ行った。そのため前線は湾曲し始めて、特に東北北陸は雨域から脱したようだ。良い方向に進み始めたように感じる。気象通報の結果を受けて、今後の作戦を決めた。

「午後出発して白馬を目指す。明日は天気良ければ朝日を回って蓮華温泉へ、  
天気が悪ければ白馬大池経由で蓮華温泉へ。」

12時出発、雨は止んで風とガス。鑓岳は通過。杓子の巻きで数分間ではあるが日差しを浴びることができた。この日差しをきっかけに空が少しずつ明るさを取り戻し始め、視界もだいぶ広がってきた。

白馬のお花畑と称する場所で10分の休憩。風が吹いてガスが流れると大雪渓と小蓮華の稜線が姿を現した。花畑の配役はトウヤクリンドウ・ハクサンフウロ・チシマギキョウ。

白馬山荘14時10分着。山荘の前の斜面はリンドウとウルップソウの群落。

15時、小屋でひと休みした後スケッチに出かけてみる。時々ガスが切れて青空と太陽も登場。

16時気象通報、前線は太平洋に抜けたようだ。中部地方に小さな低気圧がありはするが、なんとか回復の兆しを感じられるようになった。

17時夕食。食事の後ストーブの周りでポロシャツを干して雑談。

18時、すっかり晴れ上がり回りが明るくなってきたので、食後の散歩に頂上へ登ってみることにした。

鉢岳、雪倉岳、地図上で見るイメージ通りの稜線が流れるように連なっている。小蓮華、乗鞍へと延びる稜線は白砂の柔和なカーブ。杓子・鑓・・・旭岳がとりわけ大きく、中腹の雪渓も相まって立派に見える。大雪渓が雄大なスケールで広がり、その先に雲の海。

一日半の停滞が無駄ではなかった。この景色を見るために雨や風に叩かれ、ガスに取り囲まれてここまで来たのだと思うと満足感がじわじわとこみ上げてきた。

18時45分小屋に戻り、爽快な気分が失せぬうちに就寝。

### 昭和47年9月2日 <白馬山荘→三国境→白馬大池→天狗の庭→蓮華温泉口→平岩>

起床5時、天気は晴れ。山荘の郷津さんからの情報だと

「朝日岳・蓮華温泉間のルートは、徒渉地点(籠の渡し)ほか道もかなり荒れている」とのことなので、このルートからの下山はあきらめて白馬大池経由蓮華温泉のルートをとることに決定。さらに幸運なことに郷津さんが下山するそうなので、同行させていただくことにした。

6時45分、こちらだけ一足先に出発。途中で油絵を描きに来た人と出会い、寒風の中で立ち話。

「8月27日から白馬に滞在しているが、好天が続かず絵が完成できない」と嘆いていた。

7時20分白馬岳。朝の静かな山頂も悪くない。海拔3500m付近の高さに薄い雲の帯が伸びているので、多分天気はあまり続かないだろうと予測。

7時35分三国境。大休止をとり鉢岳の鞍部までスケッチに出向く。



<三国境から 左：鉢岳・雪倉岳 右：白馬岳方面を振り返る>

雪倉岳と残雪を抱いた朝日岳が間近に迫り美しい。足元には満開のマツムシソウと枯れ始めたコマクサ。旭岳の丸みが一段と大きく膨らんで見える。9時20分三国境へ帰着。後か

## 踏み跡 <My Mountains>

ら来た郷津さんと合流し、雑談をしながら歩く。小蓮華への白砂のような稜線が色も曲線も美しい。小蓮華山で 20 分ほど休憩。眼下に白馬大池、後ろには大雪溪と白馬三山。杓子は尖がり鑊は丸みを帯びて、下界から見る形とは逆なのが面白い。郷津さんにネクターをごちそうになって景色を眺めているうちに信州側はガスが上昇してきた。

白馬大池 11 時 30 分。昼食と称して再び大休止。パン・紅茶・キュウリ・桃の缶詰に小屋でもらったお茶。池の周りの植物群には目が輝いたが、とりわけチングルマの輪が日の光に輝いて立ち並ぶ様は見事なものだ。池は溶岩で構成されており、水は透明。体長 5, 6cm のサンショウウオが手のひらですくえるほどに沢山いる。手に乗せて観察してみると、時を忘れるほどに面白い。水から出すとえらを閉じて鼻をぴくつかせて呼吸の切り替えをする。尻尾の付け根に触れると必ずピクンと動くが、他のどこをいじっても反応しない。時々パクッと音を立てて口を開閉するさまが可愛らしい。長い休憩を終えて 13 時 15 分に出発。



天狗の庭 13 時 40 分。雲海に浮かぶ鉢岳・雪倉岳・朝日岳の連山と白馬本峰にしばし見とれてまた休憩。



スケッチしながら愛知大学 YH クラブのメンバーと雑談しているうちに 50 分の時が経ってしまった。

天狗の庭から下ると間もなく雲の中に突入。湿っぽいだけで何も見えない世界。

蓮華温泉 15 時着。80 円払って入浴。硫化水素のぬるめの湯だが、源泉は 95 度あるとのこと。先に着いていた郷津さんや前後して下ってきたメンバーと風呂の中で合流。ぬるい風呂から出て再び汗の染みたシャツを着たので少々寒い。

15 時 45 分出発、今日は休憩をずいぶん沢山とっている。蓮華温泉口 16 時 20 分。濃い霧に包まれて視界は 10m 程度だろうか。海拔 1500m、日が当らずしかも霧に包まれては寒くてたまらない。ポロシャツを脱いで長袖シャツに着替えてバスを待つ。バスは 16 時 45 分発、濃霧の悪路を 75 分の行程。間もなく平岩駅に近づこうという頃、対岸の上空の雲の中に三角のピークが飛び出してきたその時、バスの車掌が

「お客さん、あれが雨飾山ですよ、あまり有名ではないけれど色々あって良い山ですよ」

18 時平岩駅に到着、これで今回の山旅は 99% 終了。残りの 1% は・・・今宵は、駅に近くの姫川温泉で。

### 昭和 47 年 9 月 3 日 <平岩→帰京>

今日は優雅に、駅まで歩くだけ。9 時 23 分発アルプス 5 号新宿行で帰京。

積年の懸案事項であった「白馬三山縦走」は、天候に意地悪されはしたが何とか無事幕引きとなった。

以上